



登山教室 一切経山活動報告

報告者

9月28日(日) 一切経山登山教室に参加しましたので、以下に報告致します。

参加者：

さん、会員外参加で、
して で6名の参加でした。

兎平駐車場 9時集合。晴天です。出発前に椎原会長より読図の基本について説明がありました。山に行く前に地図で登山道を確認し山の地形や特徴を頭に入れてから行動を開始するようにとの事でした。

国土地理院1/25000と1/10000の地図が配布されました。1/25000地図は広範囲に把握する為に使用。1/10000地図には出発点の浄土平ビジターセンターから一切経山山頂までの登山道にA～Fのチェックポイントがつけられています。それぞれのチェックポイントの特徴（標高、谷や尾根、分岐、地図記号、ポイント間の距離など）を参加者で話し合いスタートしました。



浄土平ビジターセンターでコンパスを使用し整地です。自分とコンパスは動かさず地図を動かします。コンパスは腰の位置で水平に保ちます。9時40分出発。参加者がリーダーとなり各ポイントまでナビゲーションします。出発のA地点からB地点まで地図上では2cm。1/10000地図ですので200mあります。歩幅を40cmとして500歩。数え方として右足、左足を2歩として数えず右足左足を1歩として数えます（複歩）。500歩の半分250歩でB地点があると予想されました。歩数や地形を見ながらの移動ですので、各自無言で移動、すれ違いの挨拶も上の空です。

歩数と若干の誤差がありましたがB地点到着。B地点は分岐であり整地をして予定の登山道の方向をコンパス外周の角度で確認しました。各地点に到着時刻を記載すると自分だけの行動表が得られます。その後、Fまでのチェックポイントまでリーダーを交代しながら移動し、11時40分山頂に到着しました。霜降新道班の動向を気にしながら昼食を食べ下山（13時30分）。頭を使った登山は脳が疲れましたが、大変楽しく参加出来ました。有難う御座いました。下山まで晴天でした。



6月6日 二本松南小学校4年生登山サポート

4年生から登山サポートに対してお礼の手紙をいただきました。これは手紙への礼状です。

二本松市立二本松南小学校 4年生のみな様へ

先日は心のこもったお手紙をいただき、ありがとうございます。登山のサポートをしたわたしたち4人、たいへんうれしく思いました。

特に、児童のみなさん、お一人お一人山の会の人にしてもらったこと、言ってもらったことを覚えててくれたことがうれしく、感激しました。いただいたお手紙は、宝物です。感謝の言葉はお守りとして心にきざみました。

山の会のわたしたちが4年生のみなさんに感心したことが3つあります。

1つめは、足がいたかったり、つかれたり、息が上がってはあはれたりしてもあきらめず最後まで歩くことができたことです。

2つめは先生との約束を守って行動していたことです。これは自分の命を守るためだけでなく、まわりの人たちにめいわくをかけるための大事なことです。

3つめは、友達に親切にしていたことです。はげましの声をかけたり、待っててあげたり、そっと注意したり、みんなで成しとげたことをともに喜んだりしていましたね。一人一人の心がけで温かなクラスを作っているのだらうなと想像することができました。

素敵な4年生のみなさんのおかげで、わたしたち山の会の4人も心温まる素敵な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

これからも一日一日を大事に楽しく過ごしてください。そしていつかまた、一緒に山に登りましょう。

あだたら山の会



9/28 一切経山（霜降新道）山行

報告者：

私と [] そして強力助っ人 [] さんの4人のチームで霜降新道ルートでの一切経山山行です。

8時に兎平駐車場に集合しそこからスタート地点の不動沢登山口まで [] に車で送っていただきました。不動沢のつばくろ谷駐車場は既に車でいっぱいでした。多くの登山客が入山しているようです。

我々は8時半に入山開始、一番後ろは熊に襲われやすいとのことで長沢さんがしんがりを努めてくださいました。

2本のストックを後ろで打ち鳴らしながら歩くと熊よけになるそうです。今度一人で山に入るときはそうすることにしましょう。

外井さんの電子ホイッスルと私のラジオの音が加わってたいへん賑やかなパーティーです。

入山後30分で賽河原分岐に到着し、ここから霜降新道に入ります。

登山口からの道はずっと整備されていて霜降新道に入ってから下草が綺麗に刈られていたのでとても歩き易かったです。



賽河原から30分ほど登ると急に視界が開け見晴らしの良い丘の上に出ます。しばらくこの景色を堪能しながら歩くとまた樹林帯に入りますが、ここから先の道はあまり整備されておらず倒木もありました。

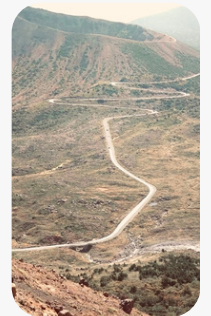
ロープが張られた急な坂を下っていくと、二つの沢が合流し不動沢となる地点に出ます。不動沢を渡り終えると今度は長い急登となります。何組かのグループに先を譲りながら登ります。先は長いので体力温存ペースで進みます。急登を登り終えるとまた視界が開け中天狗(1523m)の頂きに出ます。



ここで初めてスカイラインを見渡すことができます。霜降山や吾妻小富士も見えます。

ここから先はアップダウンを繰り返しますが、とても気持ちいい稜線歩きになります。快晴で最高の見晴らしが疲れを忘れさせてくれます。熊がいるかどうかなんて考えることもすっかり忘れてしまいます。

中天狗から少し下ってまた次の頂きを目指して登ります。頂きを登ると「白とんがり」と書いてありました。その名の通り真っ白な石ころだらけの山です。ここからさらに尾根に沿って登っていきます。



足を踏み外すとそのままさよならしそうな崖っぷちもあります。ずっと下の方にはくねくねしたスカイラインが見えています。時間は11時半で小腹もすいて来たところでしたので崖っぷちの岩に腰をおろし、雄大な景色を眺めながら軽食を取ることにしました。休憩中に新潟から来たというソロの女性登山客に出会いました。

彼女は浄土平に車を止めて霜降山のところを登ってきたきたそうです。このルートなら手取り早くこの景色に出会えます。しかし、火山性ガスの濃いところを歩いてくるわけで安全の保証はありません。それでも実際に通る人がいるもんだなと思いました。休憩を終えて次に登る頂きが駱駝山(1690m)です。浄土平からスカイラインを高湯方面にくねくね下るときに正面に見える山です。

最近SNS界限で日本のアリゾナと言われているあの有名な景色の山ですが、我々はその逆方向から吾妻小富士をバックにしたスカイラインを見下ろしています。

圧巻の景色です。





9/28 一切経山（霜降新道）山行 続き

駱駝山から先は最後の正念場、一切経山山頂を目指して滑りやすい石ころだらけの道を一気に300m登ります。

見覚えのある空気感謝塔がずっと遠く見えていてもなかなかたどり着かない辛さを感じましたが、一步一步前進し12:58ついに一切経山に到着できました。

青く輝く魔女の瞳を眺めながら約30分昼食休憩し、浄土平を目指して下山しました。浄土平には14:30着、レストハウスで二本松市の物産展に立ち寄った後、15:00全員無事にゴールに兎平駐車場に戻ることができました。歩いた距離も時間も長かったのですが、天候にも恵まれて非常に充実した山行でした。

個人山行 燧ヶ岳 リベンジ登山
報告者

10月11日～12日3時集合で燧ヶ岳への再挑戦です。リーダーさん以下5名のリベンジ組と新たに



さんを加えて6名での山行です。7時30分御池の登山口からカップ着用で出発しました。最初から登りで、石がゴロゴロで滑りやすく注意して歩きました。それでも広沢田代まで1時間、熊沢田代まで1時間とほぼ標準タイムでした。

それぞれ地とうに風景が映し出され、湿原は草紅葉で冬直前に見せる錦秋の装いに彩られていました。今回のリベンジ山行の最高のプレゼントでした。雨が強くなり山頂まで1時間を残して下山を開始し、御池と12時30分に無事下山しました。

また機会をみて再々チャレンジすることになりました。その日、翌日も檜枝岐を散策しました。

「月山・弥陀ヶ原の晩秋を歩く」10月15日～16日

《参加者》

《行程》

▶6:00

松川ICを出発。東北自動車道を経て山形自動車道・湯殿山ICで一般道へ。

▶10:20

月山ビジターセンター着。ここより急カーブ続きの山道を約50分、車を走らせる。

▶11:10

月山八合目レストハウス着。駐車場から庄内平野が見渡せる。

▶11:30

行動開始。天気晴朗。駐車場からすぐに湿原地帯の木道が始まる。冷氣を含んだ風が来たる冬を想わせる。ほんの少し前まで青々としていた草々は黄土色に変わり花々はすでにその役目を終えていた。

中ノ宮と山頂への分岐で木道は終わる。山頂への道を巡る。ポコポコの石の道のところどころに丸型の平らな人造石が置いてあり、すこぶる歩きやすい。



報告者

振り返ればなだらかな湿原と庄内平野を遠望する。この上ない好天気と湿原を渡る風に軽やかに歩は進む。途次、刈払いのグループに出会う。環境省の委託を受けて作業しているとのこと。

あいさつを交わして、我々は佛生池をめざす。

▶14:00

一の岳（1670M）付近。見下ろす斜面を覆う紅葉に歩みを忘れる。山の秋の装いを堪能。ここで予定変更。下山開始。

▶15:30

八合目レストハウス着。

▶17:00

宿坊着。宿泊客は我々3名のみとのこと。

夕食はゴマ豆腐などの精進料理。

▶翌7:30

あん餅の付いた朝食をいただく。帰路は予報通りの雨。

▶16:00

無事帰着。





環境省主催登山道保全勉強会報告

報告者

10月10日

集まっていたのは環境省の担当者と岳温泉「花かんざし」内の「安達太良・吾妻自然センター（

」の人達だった。あとは当会の3人

と、現職のくろがね小屋職員 さん、元くろがね小屋の さんなど。

まずは自己紹介の後早速作業、登山道に打ち込む「杭」作り。登山道に貼られた網などは、従来は鉄ピンで止められていたが、今は木の枝の杭になった。太さ1cmほどの木を枝を「止め棒」にする加工をしていた。場所に依っては有効である。

登山道を上りながら、所々で壊れて歩行に不便となっていた階段工の撤去や、不都合な石の並べ替えなど行っていると説明があった。 さん達のグループは薬師尾根の手入を主に活動しているのだ。それで納得があった事がある。先月26日に一人で薬師尾根経由で馬の背迄行き、くろがね小屋を上から撮影したが、そのとき、薬師尾根が何時の間にか「邪魔物が少なく、歩き易く」になっていたのだ。



杭作り



横断溝（おうだんこう）の掘り出し

最初の説明は、樹氷坂の上、環境庁整備箇所終点近く、ここで「横断溝」の整備について説明があった。登山道が荒れるのは表面を流れ落ちる水流に依る。流れ落ちる水流対策として横断溝があるが、手入れされて居らず効果が無くなってしまっている。そこで今回は「横断溝」の回復作業を行いたい。

開会式



横断溝 回復作業



下がって、仙女平分岐で昼食、知っている人が少ないので、居た登山者に「黄色のナナカマド」の説明した、環境省も さんも知らなかった。終わって実際の作業。当会と

さんの当班には、分岐から下がって、「角」を曲がって2番目の、ちょっと大きな「横断溝」の手入れが割り当てられた。排水が直接南斜面に向かう横断溝で、3mを越す。このルートでは「大規模」な方だ。

まずは 埋まっている排水パイプの掘り出しだ。最初に溝を埋めている土石を取出す。土砂に石が混じっているの、小型の「鍬」「スコップ」等で掘り出すが、踏まれて固まっているし、中々の難物。最後には手で取り出さねばなせない。大きな石はまた埋めるときにも使うので、別の場所に纏めるようにするが、最後にはいい加減になってしまった。埋まっていたパイプは、石で固められて、しかも散々踏まれていた筈だが、壊れたりしてはいない。パイプを取り出した時、中を見てみたが水流れた跡だけで、ゴミとか石とかは入っていなかった。

新しいパイプ追加してパイプを2列にして、埋めるときに使う石は、泥を落として、石だけにして埋めていく。落とした土は 土嚢袋に使う。このあたり土嚢用の土掘りだすのも、登山道狭いし急だしなので中々出来ないのだ。

今回の作業で、随所にある横断溝がパイプが二本になったり清掃されたりしたので、排水処理が改善された。今後の、降水時や雪解け水が、登山道表面を流れるのが少なくなる事が期待される。それに伴う、登山道の挟れ対策にもなると思われる。